

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金山 正子	職名	教授	学位	修士
研 究 分 野			研究内容のキーワード		
基礎看護学、看護教育			看護教育、看護学生、看護倫理、看護実習		
研 究 課 題					
看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果の研究					
担 当 授 業 科 目					
看護学概論、看護倫理、看護理論、看護技術論、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、フィジカルアセスメント技術演習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習					
授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)					
授業科目名【 看護学概論 】					
1 年次前期に遠隔授業を実施した。「人間」「環境」「健康」「看護」の概念、および、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について、個人の課題学習によるレポート作成とグループでのミーティングを導入し、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護の事例を紹介し理解を助ける工夫を行った。講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。					
授業科目名【 看護倫理 】					
2 年次後期に対面授業と遠隔授業を実施した。看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の修得をめざした。事例を用いて説明し、グループ学習と発表により、相互に理解が深まるように工夫した。また、過去の国家試験問題を練習問題とし、考える時間を作るようにした。講義終了時に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。					
授業科目名【 看護理論 】					
3 年次前期に遠隔授業を実施した。看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。また、講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。					
授業科目名【 看護過程論 】					
2年次前期に遠隔授業を実施した。看護過程論のグループ学習ではmeet機能を利用して、グループの指導を行った。学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、学習が進むように、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。					
授業科目名【 看護技術論 】					
1 年次前期に遠隔授業を実施した。対面授業が可能となった時に、実習室において、感染予防対策を厳重に行い、ベッドメイキング、シーツ交換などの技術について、複数の教員で指導を行った。					
授業科目名【生活援助技術論演習】					
1年次後期に、対面授業と遠隔授業により、複数の教員とともに実施した。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。					

<p>授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】</p> <p>1年次後期に、複数の教員とともに、フィジカルアセスメント技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>1年次生2月の1週間の実習である。遠隔授業と対面授業により、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して学内で実習を行った。教員が模擬患者となり、学生が患者からの情報収集やアセスメント、コミュニケーションの取り方やプロセスレコードの作成などについて学習し、助言や指導を行った。</p>
<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>2年次生9月に遠隔授業と対面実習により、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して実習した。実習室において、模擬患者の事例と模擬電子カルテを作成し、ロールプレイを導入して受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、実習が円滑に進むように工夫し助言を行った。</p>
<p>授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】</p> <p>4年次に遠隔授業と対面授業により実施した。市内の感染状況により、実習は学内の実習室において、感染予防対策を厳重にして行った。紙上患者事例のアセスメント、看護計画の立案を行った。また、輸液中の患者の寝衣交換と清拭、輸液管理・輸液ポンプ、呼吸法・排痰法、心電図モニター、酸素療法、呼吸音・心音の聴取、血糖測定、インシュリン自己注射の指導法、集中治療室・気管挿管介助、吸引(気管内・口腔内・鼻腔内)、標準予防策、褥瘡予防(ポジショニング)などについて、事前に課題学習・レポート作成を行い、実習室で演習を行った。また、実習のまとめの発表会と意見交換を行い、看護専門職の役割への理解を深めるようにした。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会 日本看護科学学会		1990年～現在 1990年-2012年、2014年～現在

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学 認定看護管理者教育 課程 ファーストレベル	講師	2020年10月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

教務委員会委員 キャンパス・ハラスメント防止・対策委員長 4年生アドバイザー 看護学科カリキュラム検討委員
--